



(倉吉)

鳥取・大御堂廃寺（久米寺）

1 所在地 鳥取県倉吉市駄経寺町二丁目

2 調査期間 一 第三次調査 一九九八年（平10）七月～一九九九年三月

二 第四次調査 一九九九年七月～二〇〇〇年三月

月

3 発掘機関 倉吉市教育委員会

4 調査担当者 根鈴智津子・加藤誠司・岡平拓也

5 遺跡の種類 寺院跡

6 遺跡の年代 七世紀後半～十一世紀、中世

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

の概要

遺跡は日本海へ注ぐ天神川とその支流小鴨川に挟まれた、標高一六mの沖積平野に立地する。これまでの調査により、墨書土器から郡名「久米郡」を負う「久米寺」と称された寺院であ

ったことが判明している。寺域は東西を築地塀で画し、その心々距離は約一三五m、南北は二〇〇m以上と推定される。伽藍配置は観世音寺式で、塼仏・銅製匙・銅製獸頭等が出土していることから、本格的寺院であったことが窺える。

一 第三次調査

西築地塀を推定した調査区で、旧河道の中世層から木製品とともに転読札が出土した。

二 第四次調査

出土木簡は、本誌第二〇号所載の番付を付した木簡に接続する、溜枅SE〇一の部材と、溜枅内出土の木簡である。溜枅は、中心伽藍の北西部に位置し、西築地塀から約二〇m、木樋取水口からは直線距離九六mの地点に設置され、規模は内法約一m四方、構造は方形横板組隅柱留である。その部材に番号を記した墨書があり、枳板一枚一カ所、隅柱三本五カ所、土居枅二本二カ所の計八カ所に確認された。方位を一、二字記すもので、実際の設置方位とは九〇度西に振っている。材質は、木樋・溜枅とも杉材である。枳板の年輪年代の測定から、木材の伐採時期は西暦六六三年～約五〇年との結果が得られた。

木簡が出土した溜枅内下層には、木製祭祀具（人形一・馬形一・斎串二など）・曲物・匙・建築部材など多量の木製品の他、モモ・ウメなどの種子類や植物遺体が遺存し、出土土器は七世紀後半～八世

紀前半のものを含んでいた。大掛かりな施設でありながら、比較的短期間のうちに使用不能となったものと推定される。赤外線テレビカメラ装置で墨痕の認められた木簡は、削屑三点と判読不能の断片六点を含めて一点である。墨痕の認められなかった木簡状木製品も二点ある。他の文字資料としては、溜枮掘形から「久寺」と刻印した須恵器杯片が二点出土している。

8 木簡の釈文・内容

一 第三次調査

- (1) 「 \times 奉転読大般若経十六善神王皆来守護門所也」
508×55×10 011

完形だが、墨は殆ど消失し痕跡が盛り上がった状態である。十六善神は大般若経の守護神である。

二 第四次調査

溜枮部材

- (1) 「東一」 (溜枮北辺梓板) 980×260×50 061
〔 \times 西〕
(2) 「北東」 (溜枮北西隅柱北面) (910)×(130)×130 061
・東 (溜枮北東隅柱北面)
(3) ・南 (同 東面) (910)×130×130 061

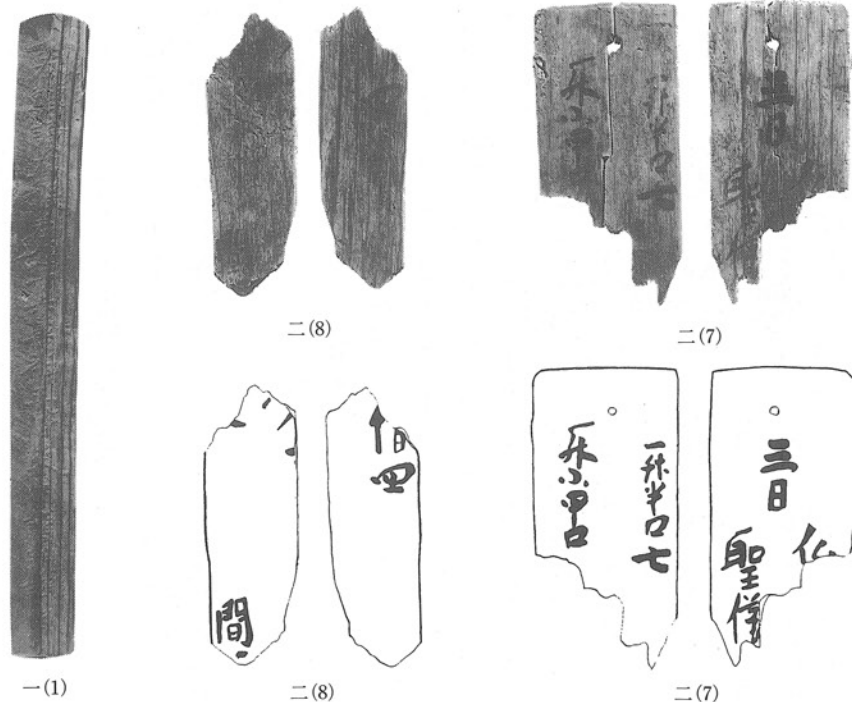
- (4) ・〇「南」 (溜枮南東隅柱東面)
・西南 (同 南面) (920)×130×130 061
(5) 「南」 (土居桁北辺) 1750×150×150 061
(6) 「西」 (土居桁南辺) 1580×150×90 061

溜枮内出土

- (7) ・「。三日仏 \times 聖□」 (90)×44×3 019
・「。一升半□七」
・「。一升小甲□」
(8) ・「□四」 (83)×28×3 081
・「間□」

(1) (6)は赤外線テレビカメラによる判読を行なっていない。(4)東面は5cm大の文字に対して小さめの丸を右上に付したものの。(7)(8)ともに墨痕は明瞭。(7)は付札木簡。縦に二分割している。(8)は上下端を折損。幅を狭めて再利用された木簡。削り残りの墨痕が認められる。

なお、木簡・転読札の釈読などに際しては、奈良国立文化財研究所の館野和己氏からご教示を得た。
(根鈴智津子)



木簡研究 第一八号

巻頭言―簡牘研究の今昔―

永田 英正

一九九五年出土の木簡

概要 平城宮跡 平城京跡左京三条一坊十五坪 平城京跡 興福寺
旧境内 大乘院庭園 藤原宮跡 藤原京跡 飛鳥京跡 長岡宮跡
長岡京跡(1) 長岡京跡(2) 平安宮内酒殿・釜所・侍従所跡 大坂城
跡 大坂城下町跡 森の宮遺跡 長原遺跡 四天王寺旧境内遺跡
長曾根遺跡 入佐川遺跡 宮内堀脇遺跡 祢布ヶ森遺跡 香住エノ
田遺跡 神戸大学医学部附属病院構内遺跡 大毛池田遺跡 駿府城
三の丸跡 駿府城跡 御所之内遺跡 葦山反射炉 大師東丹保遺跡
甲府城関係遺跡 居村B遺跡 北条小町邸跡 宮町遺跡 南滋賀遺
跡 西河原森ノ内遺跡 屋代遺跡群 大猿田遺跡 山王遺跡 市川
橋遺跡 大日南遺跡 志羅山遺跡 西太郎丸遺跡 磯部カンダ遺跡
横江莊遺跡 加茂遺跡 豊田大塚遺跡 宮町遺跡 五杜遺跡 寺町
遺跡 佐渡金山遺跡佐渡奉行所跡 桂見遺跡 岩吉遺跡 米子城跡
八遺跡 山崎一号遺跡 長登銅山跡 小倉城跡 大宰府条坊跡 呉
服町遺跡 松崎遺跡 下林遺跡Ⅳ区 昌明寺遺跡
一九七七年以前出土の木簡(一八)

塩田城跡

ノヴゴロド白樺文書

長屋王家木簡三題

算木と古代実務官人

書評 沖森卓也・佐藤信著『上代木簡資料集成』

彙報

頒価 五五〇〇円 送料六〇〇円

B・J・ヤニン
森 公章
鈴木 景二
大隅 清陽